



人工繁殖した「清澄セッコク」

鴨川の市民グループ 人工繁殖の「清澄セッコク」



清澄セッコクを販売する会員＝鴨川

JOGA洋らん展で銅メダル

セッコクは、東北地方南部から南の山地や岩場に咲く小型の着生ラン。節のある細い棒のようなバルブ（養分や水分を蓄えている膨らんだ茎）を何本も束ね、細い根で木や岩に着生し、春から初夏に白色や桃色の花を咲かせる。花には、ほのかな香りがあり、古くから園芸植物として人気がある。

清澄セッコクは、清澄山系

地域資源の可能性開く

鴨川市の市民グループ「清澄活性化クラブ」（田中伸道会長、7人）が、自生株から人工繁殖した小型のラン「清澄セッコク」が、日本洋蘭（よらん）農業協同組合（JOGA）が主催する「第79回洋らん展」でブロンズメダルに輝いた。同クラブでは、清澄の名前が付くこのランを、地域資源にしようと活動しており、その可能性を開いたかれんな花に、大きな期待を寄せている。

（伊丹賢）

「清澄を宣伝しながら地域活性化につながる」と、清澄セッコクに目を付けた。心無い人の乱獲を防ぎながら、多くの人に楽しんでもらいたいと、会員でもある大場蘭園の大場良一さん＝同市奈良林＝の協力で、株分けと実生バリエーションを増やして人工繁殖し、正月のイベントなどで販売している。

洋らん展には、大場さんが出品。過去の入賞花との比較や審査基準で絶対評価されるJOGAメダル審査で、ブロンズメダル（評価点79点）を獲得した。

田中会長は「清澄の豊かさを生かした成果の一つが、今回の受賞。その可能性を開いてくれた大場さんに感謝します。地元をほじめ、縁ができた立正大学の学生たちとも清澄の多様な資源の保存活用を図り、今後も地域活性化に取り組んでいきたい」と話している。